

## 皮膚に腫瘍形成を伴わないメラニン色素低産生性の豚の 悪性黒色腫の1例

川口絵梨<sup>1)†</sup> 鹿嶋 傳<sup>1)</sup> 大辻恵理花<sup>1)</sup> 大森笑子<sup>1)</sup>  
中島孝郎<sup>1)</sup> 大島克司<sup>1)</sup> 相原尚之<sup>2)</sup>

- 1) 神奈川県食肉衛生検査所 (〒243-0022 厚木市酒井 892-1)
- 2) 麻布大学獣医学部 (〒252-5201 相模原市中央区淵野辺 1-17-71)

(2022年10月13日受付・2023年4月6日受理・2023年8月25日公開)



本文はこちら  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/8/76\\_e197/\\_article-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/8/76_e197/_article-char/ja)

### 要 約

豚, デュロック種, 去勢, 6カ月齢の左肺に手拳大の淡赤褐色腫瘍が認められた。また, 肺の腫瘍よりは小さな粟粒大から胡桃大の灰白色, 白色あるいは淡黒色の結節が多臓器に観察された。肺の腫瘍では腫瘍細胞は紡錘形で, 長楕円形の核及び弱好酸性の細胞質を有していた。腫瘍細胞はHE染色ではメラニン色素が明らかではなかったが, フォンタナ・マッソン染色では微細な陽性顆粒が確認された。また, 腫瘍細胞はMelan-A, PNL2, TRP2, HMB45及びS-100に陽性を示した。内臓の結節は肺の腫瘍と類似した組織像を示した。全身の皮膚, 口腔粘膜, 眼などには明らかな原発巣は確認できなかった。以上の結果から, 本症例は皮膚に腫瘍形成を伴わないメラニン色素低産生性の悪性黒色腫と診断された。豚ではこのような腫瘍の発生報告は初めてである。

——キーワード: 免疫組織化学的染色, 悪性黒色腫, 豚。

----- 日獣会誌 76, e197~e201 (2023)